

佳作

## 日本に命を預けた特攻隊

鹿児島県 始良市立加治木小学校五年 八久保 美空

入ったしゅん間、いつもとちがう静かで落ち着いた空気を感じた。

今日は、予定は無かったが、知覧の近くに来ていたからお父さんとお母さんと、知覧特攻平和館に来ている。

入り口ではしんけんな表じょうで、みんなビデオを見ていた。正面には絵があった。私は、「これは何の絵だろう」と、不思議に思った。六人の女の人が男の人をだき上げて、空に連れて行く絵で引きこまれてしまいそうだった。その絵は、『知覧ちんこのふ』という絵で、特攻隊員のたましいを、六人の天女が救い出し、天に連れて行くすがたを現したものだ。私は、ビデオより絵のほうに引きこまれてしまった。

ビデオは、特攻隊員のしょうかいの様子だった。

若い人たちがすごい決意を持って、とつげきしていく。

「特攻とは、こんなにおそろしいのか」と、感じた。となりには、さびてこわれた飛行機があった。なぜこんなにさびているのだろう。この機体は、三十五年間しずんでいたから、とても無残なすがただった。でも実際の機体が残っているなんて、すぐくおどろいた。おくへと進むと、シアターがあり、私は一番見える席にすわった。日本や家族を守ろうとしていたから、すごく勇気あるなと思った。手紙や若い特攻隊の写真もたくさんかざってあった。その数なんと千三十六名も！

「なぜこんなに特攻で大勢の人が死ななければいけないんだ」と、悲しくなった。手紙は、お母さん達へのたよりが多く、お父さんや天のうへい下への手紙もあったが、お母さんへの思いがみんなとって強かったんだろう。知覧の基地もけいがあったので、三かくへいしゃという特攻隊の住む所のポタンをおしたら、四かしよ光った。この場所からも出げきしたそうだ。

帰り、外にある三かくへいしゃと、知覧特攻平和観音堂にも行ってみた。三かくへいしゃのベッドは、

マットが重ねてあり少し固くて毛ふも、すごくざらざらしていた。出げきまでこの部屋ですごすらしい、みんなみんな、どんな思いだったのだろう。

外には、たくさんさんの灯ろうがあった。お父さんが、「特攻に行って、亡くなった人の数の分、灯ろうがおいてあるんだよ。」

と教えてくれた。

知覧に来て、戦争のおそろしさと、戦争で亡くなった人の思いを知った。そして、特攻隊が日本を守るため、命をかけたことに感動した。

もう、こんなにおそろしい戦争は、起きませんように。